

鳥取県林業安全大会を開催しました

鳥取労働局長は、平成 28 年 12 月 1 日（木）、とりぎん文化会館第 1 会議室において、林業関係者の安全意識の向上を図り、林業従事者が安心して働くことができる環境を実現するため、鳥取県及び鳥取県林業災害防止連絡協議会と共に、鳥取県林業安全大会を開催しました。



大会の冒頭に、内田労働局長が、「林業作業は、作業箇所が点在し、

広範囲にわたることなど災害の発生要因が多く存在するので、林業現場で働く人達が安全対策を考え、その取組を



業界全体で取り入れて「安全文化」を創り上げて欲しい。」と挨拶を行い、続いて、平井鳥取県知事が、「鳥取県では、「とっとり森と緑の産業ビジョン」を作成し、素材生産量の大幅な増加を目標として掲げている。今後、素材生産が増加していく中で、安全衛生に係る意識の向上や徹底した安全対策が必要である。」と挨拶しまし

た。

次に、鳥取労働局木村健康安全課長が、「林業労働災害の発生状況と安全作業への提案について」説明しました。木村課長は、林業作業では、不安全な行動に起因する災害が多いことから、不安全な行動を防止するために、①適切な服装、②声かけ、③指差し呼称、④見える化に取り組み、「安全文化」を創り上げることを



提案しました。

続いて、東部森林組合の塚本技能班長及び伊藤技能員から「事業体の取組状況」について発表がありました。



伊藤技能員からは、東部森林組合の安全に関する取組状況の発表がありました。塚本技能班長からは、世界伐木チャンピオンシップ日本大会に参加した体験について、同大会では、安全に係る評価点数が高く、伐木の技術には安全対策は不可欠であると発表がありました。

特別講演では、東京大学大学院農学生命科学研究科 飛田京子 氏から、「これからの労働安全」と題した講演が行われました。講演の中で飛田氏は、「林業作業も機械化が進んでいるが、チェーンソー作業がなくなることはない。安全行動に対して自主性が求められる。これからの労働安全には楽しさが必要。」と述べました。



林業・木材製造業労働災害防止協会鳥取県支部から提供された記念品

(林業用ヘルメット)の進呈が行われた後、鳥取県林業災害防止連絡協議会前田八壽彦会長の閉会の挨拶の後、参加者全員が安全対策の徹底について「ガンバロー」を唱和して大会を終わりました。

